

令和3年度「日田市農業振興ビジョン」第2回推進委員会議事録

R3.10.7(木) 10:00～

庁議室

1. 開会（事務局）
2. 委員長挨拶
3. 議題
 - (1) 専門部会の協議経過について
 - (2) 見直し内容について ①主要・重点施策
(事務局) 資料1および資料2 (P1～41) にて説明

意見集約

議長)

資料2の9ページ[主要施策] I-4「足腰の強い畜産業の振興」について、集落や共同による自給飼料の生産とあるが今の状況で、実際これが可能かどうかお伺いしたい。

1)

日田の酪農家は比較的、一戸当たりの規模が大きいので、自らが堆肥散布や飼料生産を担うのは厳しい状況である。この役割を担う組織を立ち上げることが必要かと思う。

実際、酪農家で堆肥散布をしているのは私だけではないかと思う。現状ではスイカや白菜の圃場に堆肥を散布しており、また、きゅうり農家からも堆肥を散布してほしいという要望がかなりきている。

事務局)

市としても以前、コントラクター組織の育成を行い、1団体の組織ができた。堆肥を散布して飼料を作り、畜産農家に供給し、再び堆肥を循環させるというような形で、酪農家が直接そこに携わらなくても、循環機能が維持できるという仕組みであったが、組織の解体があり、役員の方が独立されて、引き続き同じような形をやられていると聞いている。本来であれば組織化ができて、酪農家が委託することによって、役割を分担できることが一番理想かと思うが、コントラクター組織ではなくとも、堆肥を散布して牧草を作られている方々を組織化・ネットワーク化して、そこで情報の共有等を図りながら、進めていきたいと考えている。ビジョンの畜産専門部会の中でも酪農家が輸入飼料の高騰に危機感をもたれており、自給飼料の生産を含め、酪農家自身も、どうにかしてやりたいという意見もあるため、今後引き続き、推進を図っていこうと考えている。

2)

資料2の7ページ[主要施策 I-2]「地域の特性をいかした作物の推進」について。JAの指導で、紅はるかの栽培を推進して、植える農家が多くなっているが、拡大するためには、機械も整備しなければならないし、水田畑地化の推進にも繋がって、いい機会でないかと思っている。

3)

甘しょについては、大分県農協全体で紅はるかを貯蔵して、「甘太くん」というブランド作物の生産に取り組んでいる。畑地化を進める中で、大面積での栽培をすすめる品目としては、甘しょ・にんにく等の推進を考えている。

4)

8ページ[主要施策] I-3「産直野菜の生産拡大と出荷体制の整備」について。野菜にとって「土作り」が、一番大事なことだと思っている。日田式循環型農業を推進する中で、大山町農協でも、土壌改良剤の生産などに取り組んでいるが、農家からの需要が今後大きくなった場合の供給体制について。また、その土壌改良材は使用例など伺いたい。

5)

ボリュームにもよるが、大山町農協として掲げている売上目標を満たすための製造能力はある。

土壌改良剤を使って施設でハーブを生産している農家の例を挙げると、この改良剤だけで生産が可能となっている。県北にも利用している農家がいるが、連作型の作物生産には、非常に有効的に働いているという評価もいただいている。宇佐や熊本、田主丸の農家などにも興味を持っていただいているので、農協としても、外販を進めている状況である。

6)

資料2の22ページ[主要施策]IV-1「生産基盤として有効な農地確保や農業用水施設の整備・更新」について。《方向性》の中に、「品目に応じた効率的な作業が行える基盤整備を推進します」ということが書かれているが、田畑転換を容易に行える工法として「FOEAS（フォアス）」という地下水位の制御システムの導入が県内で広まりつつある。排水対策をしつつ、必要に応じて用水を自動給水し、作物ごとに必要な水位をコントロールするというシステムである。そういった工法も先進地をみていきながら、取り組んでいくのがいいと思うので、《実現に向けた取組》の中に、そういった文言を追加するのもいいと思う。

もう一点、「ため池のハザードマップの整備及び防災情報の発信」に関連して、昨年からは流域治水ということで国土交通省は河川ごとにプロジェクトを立ち上げている。従来の河川改修に頼るだけではなく、あらゆる関係機関が連携して取り組むもの。農業分野では、「田

んぼダム」の取組も、今年は県内で実証試験をやっているのですが、農業生産に直接繋がるわけではないが、災害未然防止という観点で、ビジョンに付け加えていただければと思う。

7)

多面的機能直接支払制度等を活用しながら、農地の維持に取り組んでいる状況ではあるが、年々、農業者が減少する中で、水路や農道管理に対する負担は、農業者だけではなく地域の負担も大きくなっている。集落によっては農地の荒廃が進み、施設の管理もままならない状況。もう一步踏み込んで、集落の課題を捉えながら、寄り添った支援策が検討できないか。

また、日田市でも水田畑地化を進めているが、土地利用型の畑地活用というのが非常に難しい。収益性の高い野菜を作ろうということはしているが、広い面積をフル活用していくことが十分にできていない状況。土地利用型の畑地活用についても推進していただきたい。

8)

天瀬の杉河内地区で令和元年度から基盤整備に着手しており、どのような基盤整備がいかということ集落営農組織の方と協議を進めている。そこでは栽培したにんにくを乾燥して、黒にんにくの販売なども手掛けているが、将来圃場整備が整っていけば、その一部を畑地化して、にんにくの作付を増やしていこうという計画もある。

どうしても、米だけでは収益が上がらない状況になっているので、収益性の高い作物の栽培に切り替えていくような支援を、我々基盤整備担当としては行っていきたいと考えている。

9)

現状では、農家が米作りをしたくてもできない。後継者もいない。農地を継承して借りる人もいない。しかし何とか農地を維持する為に、使命的に受け手が手を挙げてくれている。このような形で農地を守っている状況に対して、生産物で収益を上げようと思っても上がらない中で、農地を守っていくのは、非常に費用がかかる。そういった現実をわかっているからこそ、貸し手の方も管理さえしてくれば無償で農地を貸すという状況。だからこそ、もっと担い手(受け手)の方に直接的な支援がないものかと農業委員会の中でも意見を出している。

事務局)

全国的な問題ということもあり、私達も県農協・大山町農協・県などと一緒になって話し合い、支援を考えていきたいと思う。集落営農組織の中で一緒に話をしていく中で、地域事例なども踏まえながら、勉強させていただきたい。

10)

集落だけでは農地が守れない。人がいないという現実の中で、新規就農者や移住者を迎え入れながら農地を守っていくとビジョンにも書かれている。当然そういった方向で我々も取り組んでいるが、そこに対しては営農指導体制を構築して、農業者をサポートする取組が必要。サポート体制として行政や農協が構築していくべきだが、人材不足で手広くサポートできていない。農業振興ビジョンは「農家のために行政や農協はじめ関係機関がどう働きかけを行っていくのか」を示すものだと思うので、そのあたりをもう少し踏み込んだ文言が入るといいと思う。

11)

現状は県内全域で農協改革がすすめられていて、私から見ると、農協の職員は、かわいそうだなと思っている。職員一人が担当している品目が多すぎる。県農協では販売と営農が今年から2つに分かれているが、今が過渡期だと思う。業務的に混乱していて、人材も減っているようで、苦勞されているというのが私の印象。農協職員は1人に対する仕事量が多いと思う。私たちは自分で作ったものを販売するというモチベーションがあるが、農協職員は、受け持っている仕事に対して、モチベーションをどう保っていくのかなと思うことがある。

12)

大山町農協も今人数が少ないが、大山管内は大規模な農家ではなく、少量多品目でやっている。その中で、熟練した農家の方が必ずいらっしゃる。そして、この人のということなら聞けるといふ農家間の関係性が出来ている。そういった熟練農家を農協として営農指導員に含んでいる。また先般、県にお願いした内容としては、県の普及員は異動があつて担当が変わることが多いので、できれば、1～2年程度、基礎的な営農知識を学ぶ場を作っていたらいい、そういった方が、セクションが変わっても、必ずいるという状況をつくっていただく事が、営農指導の強化に繋がるのではないかと提案している。

13)

県農協では、今年度から営農と販売が部門を分けて動いているが、最終的には栽培から販売までつなげた部分のサポートをしていくことが農協の役割かと思う。指導員の巡回の必要性は把握しており、農協として全体的に職員がいないという状況の中で、営農の部分でも、しっかり人材の育成をしていくということで進めている。

14)

今日委員として来ていただいている、須ノ原地域のスイカ・白菜農家の方から「土壌分析をしたら、土中の有機物がほとんどないという事で、白菜を栽培する前に堆肥を散布してほしい」と要望を受け、散布をした。その後、今年のスイカの結果を見てみると土壌に有機物が非常に増えていて、堆肥の力を実感した。

15)

うちは堆肥を使い始めて今年で2年目になるが、昨年堆肥を散布するときに、祖父の反対もあり、全ての畑に堆肥を散布はしていない。祖父の時代は水分量の多い堆肥がほとんどで、散布すればするほど、作物を作りにくくなるような状況を経験してきたこともあり、堆肥に対する偏見があったため、初年度は2ヘクタールのうち半分だけを堆肥散布していただいた。結果的に堆肥を散布した畑では、すごく歩留まりがよかった。一方で、堆肥を散布していないほうの畑は、2割くらい出荷ができなかった。日田は激しい雨が降るが、堆肥を散布した畑では、なんとか耐えてくれるという印象。堆肥は少し散布したくらいでは効き目が無いが、うちの場合は非常に多くの量を散布していただいているので、多少の気象変化ではびくともしない土ができています。

16)

資料2の31ページ[主要施策]VI-3「グリーンツーリズムの推進」について。農家民泊・収穫体験が取り上げられているが、日田市では、農業の関係の体験コンテンツは、他地域に比べて非常に少なく、これは観光としてもマイナス部分だと考えている。農家さんたちが観光と絡みたくないという課題が何かというと、「自分の畑を荒らしてもらいたくない」という声が上がっていて、農業体験は難しいと聞いている。ただ、今日の皆さんの話を聞いていると、私は「農業体験」だけがグリーンツーリズムではなくて、産業観光というジャンルの中では、農業の取組ひとつひとつが観光の素材になってくると考えている。もともと観光とは、「光るものを観に行く」ということだが、本日の議論はどれも「光」になっている。これをまわりに発信して、農家と交流していく事もひとつの観光。ビジョンの中で取り上げられるのであれば、産業観光として「学びの農業」のようなコンテンツをグリーンツーリズムの推進の中にしっかりと明記するのがいいと思う。

17)

観光客の受け入れに対して、私は何の抵抗もない。むしろ私個人としては、日田天領西瓜というブランドでスイカを作って、品質が高いので積極的にPRしていこうというのが目標。常々思っているのは、農家だけでPRしても面白いものがないということ。他の産業の人達と一緒に「日田市」をベースにしてPRしていけたらと思う。観光協会さんと一緒に何かできたら、私としては嬉しい。

18)

大分で言えば、湯布院・別府。熊本では阿蘇が観光地として注目されているが、実はその脇で、日田もその恩恵を受けている。例えば JR 九州の話では、ななつ星や或る列車が久大沿線を走る場合に、無農薬の農産物などの食材の相談が必ずあるが、実は観光協会では持っている情報が非常に少なく、苦勞している。今話を聞いていると「観光プラス農業」の考え方を農家の方々も一緒になってやっていくというビジョンをもっておくべきだと思う。日田市は、農業としては日田梨を筆頭に、有名でなので、ここに「観光」という側面を加えることで、産品がもう一段階上にブランディングされていくと思っているので、しっかりビジョンに明記するのがいいと思う。

事務局)

今、市として考えているのは、観光農園という形ではなくて、観光協会も入って市内の企業と連携している、「デリデリヒタ」という、日田の旬の野菜や果物を、飲食店で観光客の方に楽しんでもらって、ひいては、泊まってもらおうという戦略を立てている。課題があるのは、日田の作物は市内ではあまり販売されていないという点と、日田を訪れた方も、海のものではなくて地元のを食べたいということで、そこを解消する仕掛けをしている。もうひとつ、産業観光の面で今年から始めているのは、日田梨部会の若手の同志会に協力いただいて、三隈高校の生徒を対象に「アグリスクール」という取組をしている。通常であれば、高校生の農業体験で終わってしまうが、農業体験をした高校生が地元の和菓子店舗の方と連携して、現場を知って、作り手を見たうえで、自分たちの手で商品を作って、売っていきこうという取組です。これも農業からモノを作っていく産業という形で取り組んでいるので、ビジョンに載せる形で、検討したい。

JR との連携では、「或る列車」が、スイーツの提供という形態から、レストランに変わるという事で、これも日田の農業を売り込んでいく展開だと考えている。農作物や果物は、もっとグレードを上げたものがほしいというオーダーがある。ここに応えていくために、農産物の品質を上げていく取組も、戦略として立てていきたいと考えている。

19)

こういったビジョンなどの考え方をしっかりまとめる時、これまでは案外行政主導で作ってしまうことが多いと思うが、農家主導でしっかり自分達が目指すべき姿をビジョンに盛り込まないと、農家の思い入れがないものになってしまうと感じたので、私もその一員として、観光の観点から発言させていただいた。

20)

例えば観光についても、景観というのはかなり重視されているところになるので、担い手対策としての農地の保全や管理も重要になってくると思う。ビジョンの施策の中に、具体的な実現に向けた取組として記載するまでには至らないかもしれないが、担い手対策や営農指導のサポート体制などについては、団体や県とも情報収集していきながら、新しい方向性に少しでも導く事が出来ればと思うので、事務局でも、他市の事例等参考にしながら収集していただきたい。

(2) 見直し内容について ②品目別振興

(事務局) 資料2 (P42~55) にて説明

意見集約

21)

個人的に注目しているのが白ネギで、現状でも売上げが大分県全体で70億円くらいある。白ネギの問題点は苗づくりにあると聞いている。苗を作る期間が非常に長く、ハウスで苗を作る事になると思うので、白ネギを推進する場合は苗用のパイプハウスの補助などの申込が増えてくると思う。また品種を選べば、白ネギが水田畑地化に最も向いている品目だと思っている。栽培管理についても、追肥・土寄せ・農薬防除くらいで、あとは順調に育つのをしっかり待っていただくという感じだったので、大分のような中山間地で畑地化を推進するうえでは、白ネギは向いているのではないかと思う。

また、スイカの裏作としても相性がいい。そういう面から、白ネギは期待が持てるのでは。

事務局)

日田では今、天瀬で白ネギを栽培している方が中心になっていて、畑作で作られているという事もあり、市としては畑作の方が向いていると考えてたが、品種によっては、水田でも可能という意見もあり、また白菜の単価が近年安くなっている所以、スイカが終わった後に、白ネギを植えるような形での推進も一つあるのではないかと思う。

21)

白ネギに関しては、作り方次第では高単価になるだろうと県としても考えている。ただ、どうしても需要期と不需要期があり、需要期である冬場には市場にモノが出回っており、その分単価が下がる。どういう形で作れば、農家の皆さんの生産性が上がるか、お金になるかという部分を考えなければいけないという事を、我々も把握して取り組んでいる。

また、白ネギは、県でも補助事業等、一番充実しているというところになっており、機械等の導入も支援できるので、これも含めて栽培を検討いただけたらと思う。

一番の課題は、苗の供給で、苗づくりに非常に手間がかかり、苗代が高い。苗を自分で作る方は損しないが、手間がかかるので、人手の関係でなかなか作っていただけないということと、ハウスがどうしても必要だという点が課題である。新規の方いきなりハウスを作りなさいというのは難しく、すすめにくいということもあり、この解決は我々も考えているので、準備ができ次第少しずつ皆さんにお伝えしていければと思っている。

事務局)

皆さまからいただいたご意見は事務局で整理をし、専門部会にも本日のご意見を提示して、第3回推進委員で提案する。県の総合戦略会議の結果が10月に示されるので、これも盛り込みながら、少し修正点がでてくると思う。文言も、もう少しシンプルにした方がいい部分もあるので、きちんと整理して、改めて皆さんに提案させていただきたい。

7. その他

8. 閉会（事務局）